

[担当教員]

栗山尚子(准教授) 堀内啓佑(助教) 深川礼子(ofa)

[Teaching Assistant]

菅原慎司(A72) 小林利彰(A72) 山口沙礼(A72)

■課題概要

図書館機能と地域コミュニティの醸成に資する機能の組合せによって、現代の地域ニーズに合った地域図書館を、計画・設計する。

■演習のねらい

- (1) 公共図書館のネットワークと役割分担、図書館の機能、図書館建築の機能・空間構成を理解すること。
- (2) 施設が立地する地域の歴史、空間的・社会的特徴を把握し、地域コミュニティ施設のあり方を考えること。
- (3) 以上を踏まえて、地域コミュニティ施設としての図書館の望ましい空間を提案すること。

■敷地

敷地Ⅰ、敷地Ⅱのうち、ひとつを選択すること。

- ・敷地Ⅰ：阪急六甲駅南側、六甲八幡神社境内に隣接する敷地。
- ・敷地Ⅱ：阪神新在家駅南側、新在家南公園の北側の敷地。



■計画建物の概要

(1) 延床面積 1,600 m²前後

(±10%程度の増減は可、ピロティ、庇、バルコニー、屋外階段等は面積に参入しなくてよい。)

注意：敷地Ⅰ,Ⅱはともに容積率 200%の地区で 3,000 m²以上の敷地面積があるが、本課題では上記の延べ床面積とする。

(2) RC造、鉄骨造、または木造(準耐火建築物)

(3) 階数/複数階(平屋建ては不可)

(4) 所要室：閲覧部門 490 m²程度、集会・地域活動部門 300 m²程度、収蔵部門 130 m²程度、共通 適宜、管理部門 80 m²程度、外部空間(エントランス広場、読書テラス、駐車場×2程度、駐輪場×20程度)

■提出図面・用紙

(1) 所要図面

- ・配置図 1/500 建物本体については屋根伏図で示すこと。
- ・各階平面図 1/100 1階平面図には外部空間の計画を明示のこと。
- ・立面図・断面図 1/100 主要面・1面以上。
- ・透視図(必須) 1葉以上
- ・模型写真(必須)・完成模型(必要に応じて)
- ・設計主旨・面積表
- ・ダイアグラム、プログラム等(必要に応じて)

(2) 用紙：

- ・A1 ケント紙あるいは同等の紙(プレゼンテーションの工夫として色つきの紙でもよい) 鉛筆、インキング等の仕上げ自由。デジタル仕上げでも可

水の図書館

櫻井歌純

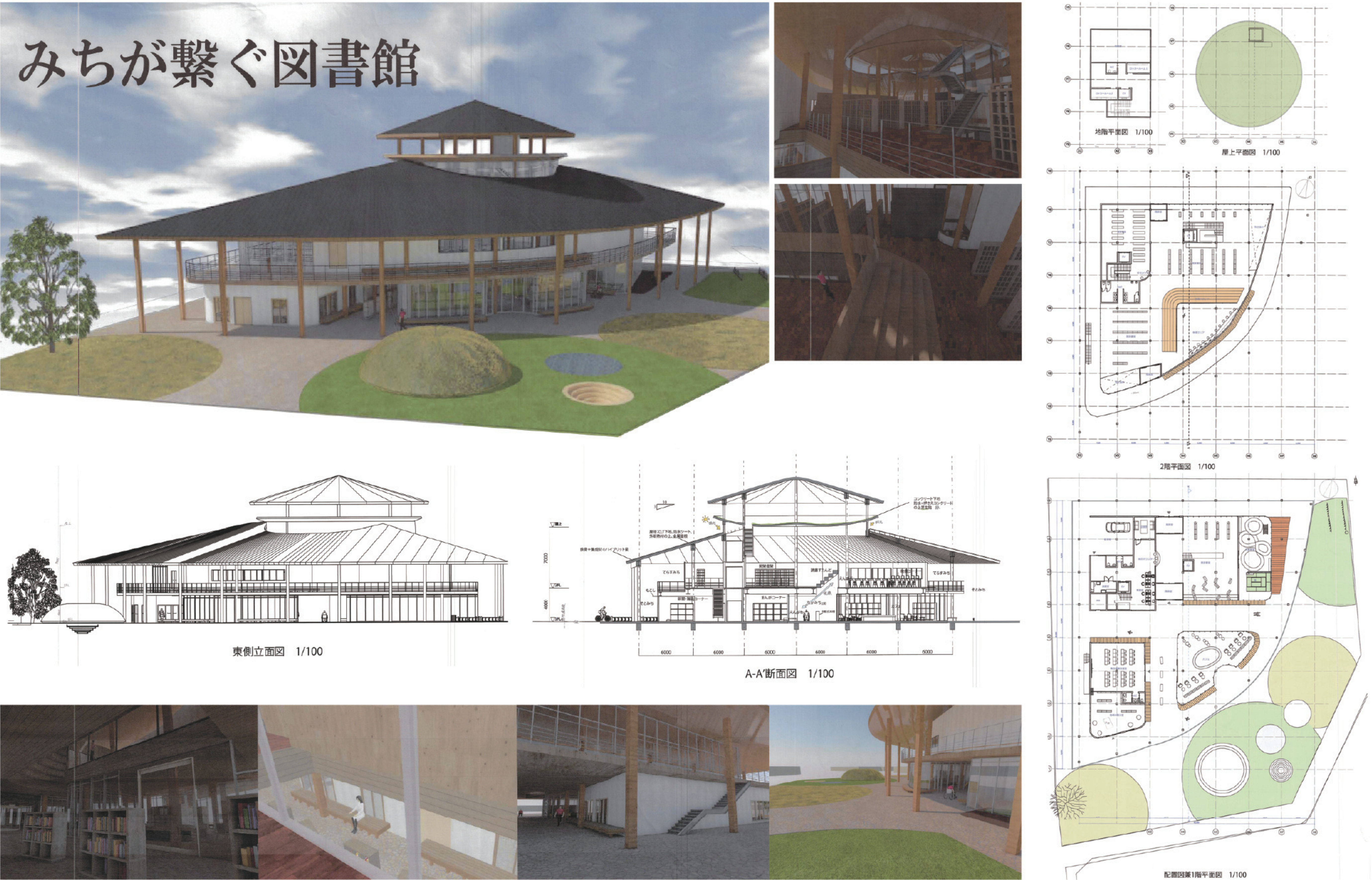
新在家南町は海と川に隣接し、水の恵みを受けるだけでなく、川の氾濫による水害、またそれによる復興を繰り返しこの町の人々はつながりを深めてきた。この歴史から「水辺に集う」ことでコミュニティが生まれ、また水害、復興の歴史を学ぶ場としての図書館を設計した。滑らかな水の動きを連想させるように、それぞれ異なる勾配の屋根を組み合わせ、この町のシンボルとなる建築を目指した。



みちが繋ぐ図書館

吉田美貴

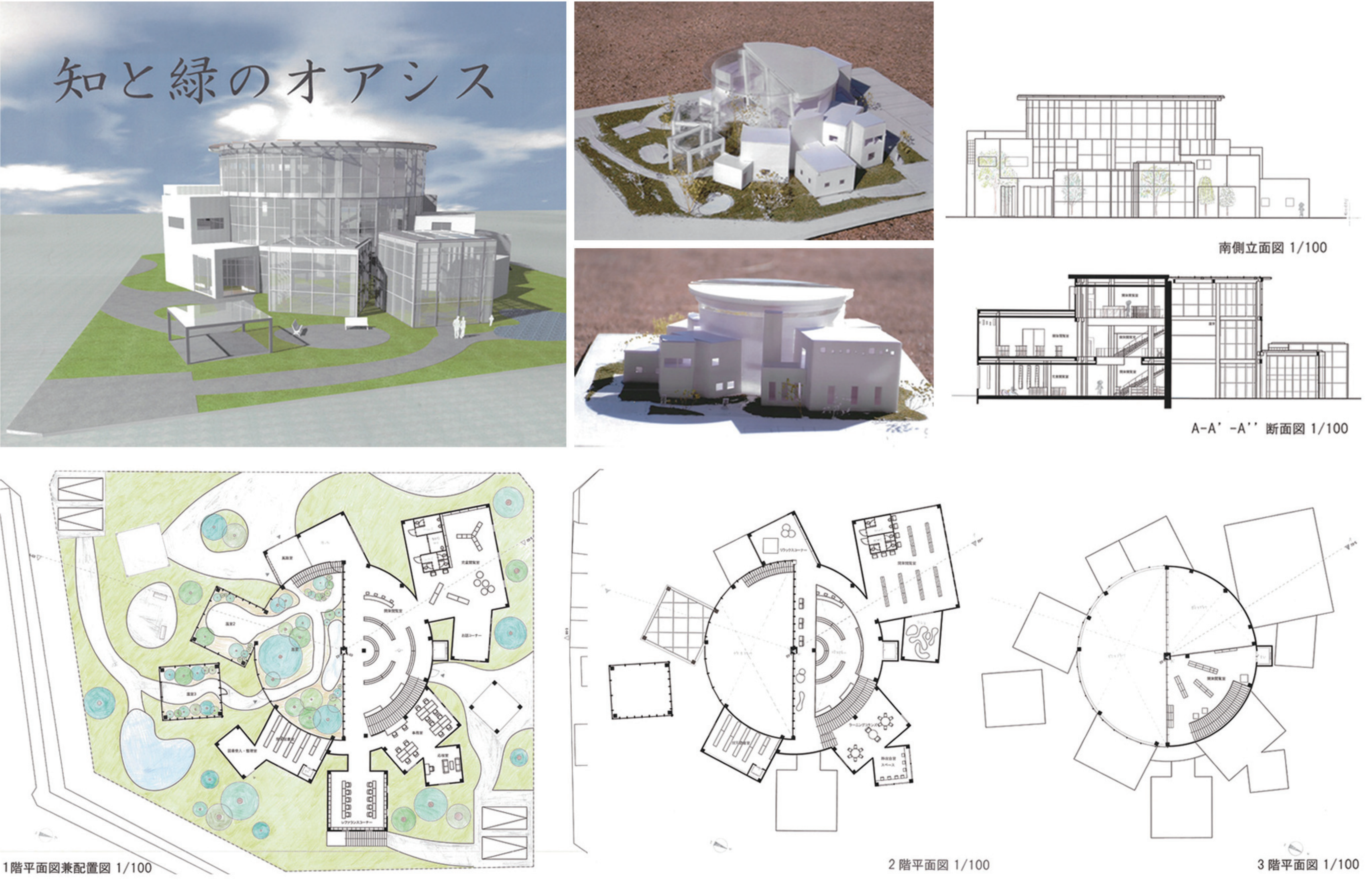
「みち」は、単なる通過動線ではなく「社会とつながる場」である。「みち」の幅を広くし、縁側や可動式本棚を置いたり、地域活動の場として、神輿が通ったりと、「ふるまい」によって変化する場となることを想定し、二階との視線や空間のつながりを考えた構成とした。本という物質が持つ魅力と「みち」という空間によって、多様な人々の「ふるまい」を生み出す地域コミュニティの舞台となるような図書館を計画した。



知と緑のオアシス

津島咲佳

図書館と植物園が融合した建物である。図書館の静寂さと植物園の香りや雰囲気、地域の人々がリラックスできる空間を目指した。南側に植物園、北側に図書館を配置した。周囲への広がり意識させるために、中央のボリュームを円形とし、周囲に異なるボリュームの直方体を配置した。図書館と植物園は最上階まで続く巨大なガラスで仕切り、図書館のどこにいても緑を感じることができる。



藤田答子

広がり
の樹



積み重なり、交わる知

